

報告タイトル

デジタル時代の中国トラック運転手——インフォーマリティのダイナミズムと限界
Chinese Truck Drivers in the Digital Age: The Dynamism and Limitations of Informality

氏名（所属）

張 馨元（横浜国立大学）
ZHANG Xin Yuan (Yokohama National University)

要旨（800 字程度）

1980 年代以降、中国経済においては、「インフォーマル」と「フォーマル」の境界が常に変化してきた。改革開放期に、国有部門の再編が進み、従来のフォーマルセクターの一部が解体された。一方で、それまでインフォーマルとされた民間の経済活動がフォーマルセクターに組み込まれ、吸収されるとともに、大きく成長した。このように、改革開放以降の中国経済の成長は、計画経済期に設立したフォーマルセクターの崩壊に始まり、「フォーマル」と「インフォーマル」の境界をあいまいかつフレキシブルにする制度が高い経済効果をもたらした過程であるといえる。

本論文で取り上げる中国のトラック輸送業は、インフォーマルの経済主体、すなわち個人の輸送業者たちが、フォーマル部門にある生産企業や物流企業にサービスを提供し、経済発展に重要な役割を果たしている事例である。本論文の目的は、デジタル経済が進展した 2010 年以降の状況を中心に、トラック運転手の実像と生産活動の特徴を明らかにすることである。さらに、トラック運転手の事例を通じて、中国におけるインフォーマリティのダイナミズムとその限界を検討する。

本論文で明らかにした中国のトラック運転手の基本像は以下のように要約できる。すなわち、道路輸送業を担うトラック運転手の多くは、農村戸籍を持つ 30 代または 40 代の、学歴が比較的に低い既婚男性である。彼らは、社会福祉の面で周辺化されている農民工であり、インフォーマルな経済主体である。にもかかわらず、トラック運転手は家族労働や「掛靠」経営を活用し、フォーマル部門の企業と結びつきながら、高度成長期における道路輸送業の成長を支えてきた。このようなトラック運転手の事例は、様々な分野で働く農民工の代表例として、インフォーマルな経済主体が中国の産業成長を支えてきたことを端的に示している。